

つくだ

学校だより No. 1
 青森市立佃小学校
 令和5年4月10日発行
 ◆あかるく・かしこく・たくましく◆

全校児童数453名
 4月7日現在



『友だちのすてきなつくりかた』



校長 山田 彰利

学校より一足先に新学期を迎えたところがあります。放課後児童会です。本校の教室を活用しているので、時々のおかかせてもらっています。先日、新1年生の子が仲良く遊んでいたのでもう一度探してみました。「同じ保育園?」「違うよ」「へええ、もうなかよしになったの?」「うん、いっしょに遊ぼうって言ったから。」「それに僕の話聞いてくれるから。」

なんてすてきな二人でしょう。自分から話しかけること、誘ってみること、勇気をもって「えいやっ」とやったのですね。次の一言がもっとすてきです。話を聞くことは、人間関係を築く第一歩。聞くという行為は、「あなたを認めてるよ、大切に思ってるよ」というメッセージになります。聞いてもらった方だって、自尊心が高まりホッコリですよ。

学校生活を充実させる大きな要素の一つは、友達をつくることかな、と思います。新しい学年で初めて体験することも、友達と一緒に頑張れば、なんとかなります。大人だって、同僚や家族の支えがあることでパワーが湧いてくることもあります。

4月7日、新しい教室で、新しい教科書（小中学校の教科書は税金で無償配付されており、4月10日は「教科書の日」となっています）とともに、令和5年度の佃小学校がスタートしました。今年度は、1年生76名を加え、全校児童453名でのスタートです。子供たち一人一人のよさを認め、仲間づくりを大切にしながら、充実した1年を送れるよう、保護者の皆様、地域の皆様のご協力もいただきながら、教職員一丸となって取り組んで参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

令和5年度 青森市立佃小学校 学校経営の方針			
教育目標	あかるく	かしこく	たくましく
努力目標	みんななかよし	豊かな学び合い	たくましい心と体
めざす学校像	子供も教師も保護者も地域住民も 一人一人が輝き 活気あふれる学校		

学校経営の重点

- 1 日々の積み重ねを大切にされた教育活動
- 2 活動のねらいの明確化が図られた教育活動
- 3 子供のよさや可能性を生かし、プロセスを大切にする教育活動
- 4 一人一人の思いが大切にされていると子供が実感できる教育活動
- 5 協働して納得解・最適解を見いだす活動を重視した教育活動
- 6 社会に、地域に、家庭に、校内に関われ、相互の連携が図られた教育活動
- 7 小・中の連携・円滑な接続が図られ9年間の育ちを見通した教育活動
- 8 ICT(Chromebook)を効果的に活用した教育活動
- 9 正しい食習慣、運動習慣を身に付けさせる教育活動
- 10 感染症対策が適切に講じられた教育活動

特に重視する
4つの項目

4月の行事予定



- 7日(金) 入学式・新任式・始業式
10日(月) 登校指導(～12日)
1年生下校指導(～12日)
2～6年給食開始、5年聴力検査
11日(火) 尿検査①
テストメール配信(12時頃)
12日(水) 2・5年知能検査、3年聴力検査
職員定時退下の日(毎週水曜日)
13日(木) 1年給食開始、2年聴力検査
委員会組織会
14日(金) 1年聴力検査、全校5時間授業
全校参観日(授業参観13時～)、
PTA・後援会組織会

※ 参観日については、7日の
お知らせをご覧ください。

- 17日(月) 避難訓練①
たん・ひま聴力検査
18日(火) 6年全国学力テスト
2～4年身体測定
19日(水) 交通安全教室、職員定時退下の日
20日(木) 全校朝会、4時間授業
21日(金) わくわくお話タイム
1年生を迎える会
教育委員会訪問5時間授業
24日(月) 5・6年たん・ひま身体測定
25日(火) 1年・未検査児身体測定
26日(水) 尿検査②、職員定時退下の日
27日(木) 4月分引落日①、音楽集会
1年視力検査、委員会活動
28日(金) 歯科検診
29日(土) 昭和の日

5月以降の予定は、7日に
配付した学校暦をご参照
ください。

令和5年度 佃小学校の取組

① コミュニティ・スクールとしてスタート

- 佃中・浜館小との3校共同で学校運営協議会を持ちます。学校運営協議会には地域や保護者の代表の方が参加し、学校の方針などを承認してもらいます。文字通り地域とともに歩む学校となります。皆様にとって敷居の低い学校・風通しのよい学校を目指します。

② 「前期・後期」の2期制を継続

- 長いスパンで子供の成長を捉えることから、じっくりと力を伸ばすことができます。また、7月や12月にも大きな行事を行うことが可能となります。

③ 3学年以上で、一部教科担任制の継続

- 学年によって教科は違いますが、一部の教科を専科教員が担当したり、学年の教員が強化を決めて担当します。複数の目で子供たちを育てることで、多面的に評価することができます。